



大学の現状 しっかり把握を

染谷忠彦

女子栄養大学常任理事

高校の進路指導の先生方と勉強会などでよくお会いしますが、偏差値や知名度での大

学選びは昔からなかなか変わっていきな

っていきなと感じます。

多くの先生方の評価は、①

国公立②早・慶・上智③G-

MARCH(学習院、明治、

青山学院、立教、中央、法政)

④日東駒専——と続き、特に

最近は何が何でも国公立と

いう指導になっているように

です。例えば、保護者の悩み相

談にこんな例がありました。

△高校の先生に「私の子供

は私立大学への進学を考えて

います」と相談したところ、

「自分でやって下さい」と言

われてしまいました。どうす

ればいいでしょうか

△国公立合格を目標に掲げる

のはいいかもしれませんが、

高校の先生方へ

この先生はおそらく、高校の進学実績を上げることしか考

えていないのでしょうか。知名

度だけでなく、教育の内容や、

学生の支援体制、就職の実績

など、その大学の現状をしっ

かり把握した指導をしていた

だきたいと思うのです。

高校の熱心な先生方は、私

たち私大の関係者に「入学前

教育をやっていきますか?」学

生の支援体制は?」「就職指

導は?」と厳しい質問を次々

に浴びせてきます。その質問

が、私大の大学改革に大きな

影響を与え、学生のためのよ

り良い大学づくりを推進して

いるのです。私大だけでなく、

国公立大にもぜひ同じように

質問をして、変革のきっかけ

を作ってください。

ところで、推薦

入学者が新入生の

半数以上を占める

大学が目立ち始め

ています。国が

示す推薦枠の目安

が定員の50%まで

拡大されたためです。これに

伴って、さまざまな問題が表

面化してきました。最も深刻

なのは推薦入学者の基礎学力

の問題で、多くの大学が、授

業にスムーズに入れるように

と入学前教育を実施するようになり

ました。

また、「推薦」の意味もあ

やふやになる一方です。指定

校推薦の面接で「この大学、

学部、学科をなぜ希望したの

と尋ねると、ある生徒は「先

生に『そこがいい

んじゃない』と言

われたから」と答

えました。

高校の先生方が

大変なのは承知し

ております。しか

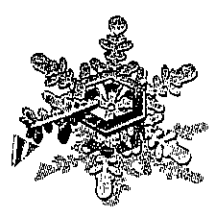
し、進路指導はその子の将来

を左右する大事な仕事。「大

学で何をしてくれませんか」だ

けでなく、「高校で何ができ

るか」も改めてお考えくださ



ご意見は、〒100・8055読売新聞東京本社「大学取材班」へ。ファクス03・5200・1827、メールdaigaku@yomiuri.com